

「謙虚な心を忘れない」

～神さまがお与え下さっている冒険の生涯へ進む道～

「あなたがたは神の住いであって、あなたがたの中には、神の聖霊が宿っておられることを知らないのか。だから、神の住いを壊す人がいたら、神の罰を受けないではおかない。神の住いは聖なるものであり、実に教会は神の住いである。」

コリント人への第一の手紙3章16,17節 [現代訳]

聖書の主人公は神様ご自身です。だから、聖書を読むときには神様ご自身の前に「謙虚な心」で素直に真実に聞かなければなりません。

大川先生が私たち献身者たちに何度も教えてくださっているメッセージがあります。それは、先生ご自身が師である車田先生から教えて頂いたお言葉でもありますが、それは、ヤコブ書3章17節に登場する「温順」という日本語で、英語では「yieldness」(「譲歩」とも訳せる。「yield」でアメリカでは交通標識で相手に道を「譲る」という時に用いている)。これは神様ご自身に自分の心をお譲りすることの大切さを語っています。合わせて二つのクリスチャンに必要な心構えとして、①teachable personality「教えられやすい心」…どんな人からも素直に教わる心の大切さ。②unlearned people「まるで学んでいないかのような謙虚な人」…しっかりと学んでいるのだけれど、まだまだもっともっと飢え渴いて学ぶ心を持つ大切さ。これらを、何度も教えていただき大きな宝となっています。

また、クリスチャンとして、この世の中で生きることの難しさ、霊的になるということはどういうことか？と考えた時に、大川先生のメッセージの中で大きな意味を持っている内容として、「純粋性の埋没」という言葉があります。クリスチャンとして、純粋に、ピュアに生きていかなければならないのですが、純粋さを追求すればするほど、私たちはこの世から孤立してしまい「純粋性の孤立」になってしまいやすい。また、この世で証しをしていくために、この世に入りすぎて、ミイラ取りがミイラになるということになり、「妥協の埋没」ということにもなりやすい。しかし、そうではなく、とにかく純粋な信仰を持ちながらも、この世の中でしっかりと証しをして、輝いた生き方をしていくということはかなりの緊張感を持ち続けなければならないために、苦しい生き方でもあります。だからこそ、私たちは神様の前に謙虚になり、あわれみを求め続けて、祈り続けていく存在となるべきである。

クリスチャン生活は片手うちわで出来る内容ではないということは事実ですが、それを通して与えられる永遠の祝福の世界と、この地上における人間性の成長という点で、本当に大きな意味を与えることができます。何のために生きるのか？何のために人は努力するのか？その意味を与え続けてくれるのが信仰の世界、聖書の世界、神さまが私たちにお与えになっている素晴らしい冒険に満ちた生涯ではないでしょうか！